

II 小樽市保健師の標準的なキャリアラダー

1 専門能力に係るキャリアラダー

区分	キャリアレベル					
	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	
キャリアレベルの定義	所属組織における役割	・組織の新任者である行政組織及び保健師専門職としての自覚を持つ。	・計画された担当業務を自立して実施する。 ・フリセプターとして後輩の指導を担う。	・保健活動に係る担当業務全般について、自立して行う。 ・依頼や出場の違いを理解し、つなぎ役としての組織的な役割を担う。 ・自組織を超えたプロジェクトに参加する。	・所属内でチームのリーダーシップをとって保健活動を推進する。 ・キャリアレベル以上の保健師を確保する。 ・関係機関との連携関係を築き協働する。 ・自組織を超えたプロジェクトで主体的に発言する。	・所属の保健師業務全般に関して指導的役割を担う。 ・自組織を超えた関係者との連携、調整を行う。
	責任を持つ業務の範囲	・担当業務を的確に把握し、個別事例に対して責任を持つ。	・市の保健事業に係る業務全般を理解し、地域支援活動に係る担当業務に責任を持つ。	・市の保健事業と施策との関係性を理解し、主担当として担当業務に責任を持つ。	・市の保健事業に係る業務全般を理解し、その効果的な実施に対して責任を持つ。	・組織の保健事業に係る業務全般を理解し、その効果的な実施に対して責任を持つ。
	専門技術の到達レベル	・基本的な事例の対応を主体的に行う。 ・地域活動を通して地域特性や地域課題を把握し、地域の人々の健康課題を明らかにする。	・複雑な事例への対応を必要に応じて指導を受け実施する。 ・担当地域の健康課題の優先度を判断し、地域の人々の主体性を尊重した解決策を立案する。	・複雑な事例に対して自立して対応する。 ・健康課題を明確にし、チーム内で共有し、地域の人々と協働して事業計画を提案する。	・複雑な事例に対して、担当保健師等にスーパーバイズすることができ、 ・健康課題を明確にし、チーム内で共有し、地域の人々と協働して事業計画を提案する。 ・健康課題を明確にし、地域の人々と協働して事業計画を提案する。	・組織横断的な連携を回し、複雑かつ緊急性の高い地域の健康課題に対して迅速に対応する。 ・健康課題解決のための施策を提案する。

保健師の活動領域	求められる能力	各レベルにおいて求められる能力				
		A-1	A-2	A-3	A-4	A-5
1 対人支援活動	1-1 個人及び家族への支援	・医学や公衆衛生看護学等の専門知識に基づき個人及び家族の健康と生活に関するアセスメントを行う能力 ・個人や家族の生活の多様性を踏まえ、あらゆる健康課題の課題を把握して個人及び家族の主体性を尊重し、課題解決のための支援及び予防的支援を行う能力 ・必要資源を導入し調整し、効果的かつ持続的な個人及び家族への支援を行う能力	・個人及び家族の健康と生活について情報収集ができる。 ・複雑な事例の支援を必要に応じて、指導を受け実施できる。 ・対象の主体性を踏まえ、支援に必要な資源を確保して導入及び調整できる。 ・健康課題に応じて、個別支援と集団支援を選択できる。 ・個別事例の健康課題から地域健康課題を明らかにし、必要な対策（事業）を考えられる。	・複雑な事例のアセスメントを行い、支援を実施できる。 ・支援に必要な資源を適切に導入及び調整できる。 ・必要時、ケア会議を開催できる。 ・個別事例から見える健康課題について必要な調整と共有できる。	・複雑な事例の潜在的な健康課題を把握し、予防的に支援を実施できる。 ・必要時、新たなグループ化、組織化を働きかけることができる。	・複雑かつ緊急性の高い健康課題を迅速に明確化し、必要な資源を調整し、効果的な支援を実施できる。 ・予防的支援のために所内横断的な連携・調整を行うことができる。
	1-2 集団への支援	・集団の特性を把握し、指導を受けながら支援を行う能力 ・集団及び地域の健康課題を高める能力	・集団の健康課題を整理できる。 ・集団のグループダイナミクスを活用して、特性に応じた支援計画を立案し、自立して支援できる。 ・集団支援を評価し、効果や課題を整理できる。	・集団支援を通して、地域の健康課題を明確化することができる。 ・必要時、新たなグループ化、組織化を働きかけることができる。	・集団支援を通して、地域の健康課題に向けた事業計画を立案できる。 ・必要時、新たなグループ化、組織化を働きかけることができる。	・集団支援を通して立案した事業により、住民に地域健康課題の解決を支援することができる。
2 地域支援活動	2-1 地域診断・地域活動	・地域の保健情報や住民の声、実態調査など複数の観点から多角的に地域特性や健康課題を明確化する能力 ・地域組織や関係機関と協働して予防的視点で課題解決する能力	・地域において個別支援で得られた情報や既存の保健情報等の必要な情報を収集・分析し、健康課題を明確化できる。 ・明らかになった健康課題の優先度を判断できる。 ・地域の社会資源から、支援チームを組むことのできるメンバーを考慮することができる。	・地域における保健情報、個別支援、地域組織との連携を踏まえ、多角的に情報を分析し、健康課題を明確化できる。 ・地域に存在する健康課題の解決に向け、地区組織や関係機関と協働して取り組むことができる。	・地域に存在する健康課題を把握し、リスクの把握や予防のための事業や対策を立案できる。 ・必要時、新たなグループ化、組織化を働きかけることができる。	・地域診断や地域活動で明らかになった健康課題を各種保健施策に反映し、実施することができる。 ・医学や統計を活用した地域診断の指導ができる。
	2-2 地域組織活動	・地域の特性を理解し、住民や関係者と協働して組織化、ネットワーク化を図る能力 ・地域組織を育成し、ネットワーク化し協働する能力	・地域組織と、その役割や関係性について把握できる。 ・地域特性を理解した上で、地域組織と共に活動することができる。	・地域組織との協働から、住民ニーズが多岐であることと理解できる。 ・健康課題を解決するために必要な地域組織がある。	・住民、関係者と共に活動しながら、健康課題に向けた組織化、ネットワーク化を提案できる。	・地域の住民、関係者と交え、地域組織の育成を行うことができる。 ・地域の地域組織の充実・強化のための助言ができる。
	2-3 ケアシステムの構築	・健康なまちづくりを推進するための保健、医療、福祉、介護等の各種サービスの統合的調整を行う能力 ・住民、学校、企業ほか、地域の関係機関と協働し、地域特性に応じた連携体制をシステム化する能力	・地域の各種サービスとその関係性を理解できる。 ・指導を受けながら、担当事例に必要なサービス活用に向けた連携体制を整えることができる。	・担当事例に対し、主体的に必要な地域のサービス活用を行うことができる。	・地域特性を踏まえ、既存の地域ケアシステムの課題を把握することができる。 ・健康課題の解決に向けた地域特性に基づき、地域ケアシステムの改善、強化のための対策をイメージできる。 ・関係機関と協働して地域ケアシステムの改善を調整する場を企画、調整できる。	・保健福祉政策に基づき、地域特性及び健康課題に応じたケアシステムの構築に係る施策化ができる。 ・地域ケアシステムの質の管理ができる。
3 事業の事業化・実施	3-1 事業化・実施	・健康増進計画等を理解し、事業を企画立案し、予算確保できる能力 ・地域の健康課題を解決するため、自組織のビジョンを踏まえた保健福祉施策を提案する能力 ・多職種や他機関と、課題や課題解決の取り組みを共有する等協働関係を築き、事業や活動を推進するための調整能力	・小樽市の施策体系や財政のしくみについて理解できる。 ・担当事例の推進する動きの動きや通知内容を把握できる。 ・担当事例の根拠や関連事項について理解できる。 ・担当事例の起原、通知の作成ができる。 ・担当事例において、チームのメンバーとして役割を果たすことができる。	・健康課題を把握し、施策と事業との関係性について理解したうえで、事業計画立案の場を意見交換することができる。 ・担当事例の進捗管理ができる。	・健康増進計画等に基づいた事業計画を立案できる。 ・事業の目的、成果の見通しについて概算資料を作成し、関係機関や関係者との調整を行うことができる。 ・健康増進計画等に基づいた事業計画を立案できる。	・地域の健康課題を解決するためのビジョンを示すことができる。 ・健康増進計画等に基づいた事業計画を立案できる。 ・事業の目的、成果の見通しについて概算資料を作成し、関係機関や関係者との調整を行うことができる。
	4 健康危機管理に関する活動	4-1 健康危機管理の体制整備	・平時において、地域の健康課題及び関連法規や組織内の健康危機管理計画等に基づき、地域の健康危機を把握し、活動調整する能力	・関係法規や健康危機管理計画及び対応マニュアルを理解できる。 ・健康危機に備えた住民教育や指導を受けながら行うことができる。	・健康危機対応マニュアルに基づき、予防活動を行うことができる。 ・健康危機に備えた住民教育や指導を行うことができる。 ・過去の健康危機管理の対策での課題を明確にすることができる。	・地域特性に応じた健康危機の予防活動を評価し、見直しや新規事業を立案できる。 ・所内外の関係者と役割の調整ができる。
5 管理的活動	4-2 健康危機管理発生時の対応	・健康危機発生時に、組織内外の関係者と連携し、住民の健康被害を回避し、必要な対応を迅速に判断し実施する能力	・健康危機発生時、チームの一員として必要な対応や指導の指示も受けることができる。 ・現状を把握し、情報を整理し、上司に報告することができる。	・健康危機発生時にチームの一員として、必要となる状況や二次的健康被害を予測し、予防活動を計画、実施できる。 ・小樽市での健康危機管理対策の支援を実施することができる。	・実施した対策を評価し、次の活動に反映できる。 ・今後起こりうる健康被害を予測し、回避するための対応方法について、変化する状況を踏まえて、整理し調整できる。 ・組織内の関係者との連携、調整ができる。	・有事に起こりうる健康危機の対応に備え、平時より関係者との連携関係を構築できる。 ・健康危機発生時にチームの一員として、必要となる状況や二次的健康被害を予測し、予防活動を計画、実施できる。 ・小樽市での健康危機管理対策の支援を実施することができる。
	5-1 PDCAサイクルに基づく事業・施策評価	・個別支援、地区活動から得られた情報と課題を元に、PDCAに基づく事業評価を行う能力 ・組織内外の関係者とともに、事業評価及び施策評価、保健活動の効果検証を行う能力 ・保健師自身の成長につなげる事業及び施策の必要と調整を行う能力 ・個別支援評価による質の維持と向上のための事業管理能力	・PDCAサイクルに基づく事業評価方法を理解できる。 ・担当事例の評価根拠が説明できる。 ・保健師自身の成長につなげる事業及び施策の必要と調整を行う能力 ・個別支援評価による質の維持と向上のための事業管理能力	・所属内で事業評価が適切に実施できるよう保健師を指導できる。 ・評価に基づき、事業の見直しを主体的に実施できる。	・所属内外の保健師とともに事業評価を行うことができる。 ・事業計画の立案時に評価指標を適切に設定できる。	・評価に基づき保健活動の効果を検証し、施策の見直しについて提案できる。 ・健康増進計画等に基づいた事業計画を立案できる。 ・事業計画の立案時に評価指標を適切に設定できる。
	5-2 情報管理	・所属内外の保健活動に係る情報を適切に保管、開示、保護する能力	・個人情報等の保護を踏まえて適切に文書管理できる。 ・保健活動に知り得た個人情報を適切に取り扱うことができる。 ・保健師自身の成長につなげる事業及び施策の必要と調整を行う能力 ・個別支援評価による質の維持と向上のための事業管理能力	・保健活動に係る情報の取り扱いが適切に行われているか、自主的に確認できる。 ・保健師自身の成長につなげる事業及び施策の必要と調整を行う能力 ・個別支援評価による質の維持と向上のための事業管理能力	・所属内外の保健師が規則を遵守して保健活動に係る情報を管理するよう指導できる。	・保健活動に係る情報管理上の不測の事態が発生した際に、所属部署内で主導して対応できる。 ・情報管理に係る状況を把握し必要に応じて適正化、効率性を提案できる。
6 保健師の活動基盤	5-3 人材育成	・小樽市の人材育成について理解することができる。 ・組織の人材育成方針及び保健師の人材育成計画を理解できる。 ・キャリアラダーを活用し、自己の到達目標を確認できる。 ・フリセプター又は上司と共に自己の到達目標の達成に向けて指導を受け、自己の到達目標に基づき評価を行い、今後の目標をフリセプター又は上司と確認できる。	・キャリアラダーを活用し、自己自身の到達目標を主体的に確認できる。 ・自らのキャリアパスを考え、積極的に自己研鑽することができる。 ・フリセプター又は上司と共に自己の到達目標の達成に向けて指導を受け、自己の到達目標に基づき評価を行い、今後の目標をフリセプター又は上司と確認できる。	・後輩を育成する視点を持ち、後輩の能力を判断し、適切な指導ができる。 ・自らのキャリアパスを考え、積極的に自己研鑽することができる。 ・後輩の育成の体制について、所属として必要な支援を提案できる。 ・学生実習で指導することができる。	・自己研鑽として、所属内で学び合う機会を企画、実施、評価できる。 ・自己研鑽として、所属外で保健師関係者との学び合う機会を企画、実施、評価できる。	・人材育成基本シートをもとに、所属内外の保健師の目標を把握することができる。 ・年度末に人材育成計画を作成できる。
	6 保健師の活動基盤	・根拠に基づいた保健師の活動を実施する能力 ・活動の対象である個人、家族、組織の持つ様々な課題を把握し、それらの対象と多岐なコミュニケーションがとれる能力 ・組織内、活動の対象と関与する関係者との間で、他者と協働して保健活動を進めることができる能力 ・多様な参加や発表など、専門職としての自己研鑽の能力 ・自己の健康管理ができる能力	・保健師の役割について自分の考えを述べることができる。 ・自分の担当業務を説明できる。 ・自分の健康増進、メンタルヘルスの管理ができる。 ・組織内、活動の対象と関与する関係者との間で、他者と協働して保健活動を進めることができる能力 ・多様な参加や発表など、専門職としての自己研鑽の能力 ・自己の健康管理ができる能力	・保健師の専門性について、自分の言葉で説明できる。 ・組織内のコミュニケーションがとれる。 ・多岐な課題を把握し、多岐にわたる関係者との間で、他者と協働して保健活動を進めることができる能力 ・指導を受けながら研究的手法を用いて質の高い事業の評価ができる。	・自己の活動と能力の成長を定めて、他者、他機関、他職種と協働して保健活動を行うことができる。 ・保健師としての実践と専門性の育成の指導ができる。 ・事業の評価や分析したデータなどの根拠に基づき、個別的、潜在的な健康課題に基づいた保健師業務を反映し、その効果を検証することができる。 ・研究の結果を事業に反映することができる。	・保健師として、総合的な視点で判断できる。 ・専門職としての実践と専門性の育成の指導ができる。 ・事業の評価や分析したデータなどの根拠に基づき、個別的、潜在的な健康課題に基づいた保健師業務を反映し、その効果を検証することができる。 ・研究の結果を事業に反映することができる。

保健師の活動の理念である公正性・公共性について理解し、活動を倫理的に判断できる。